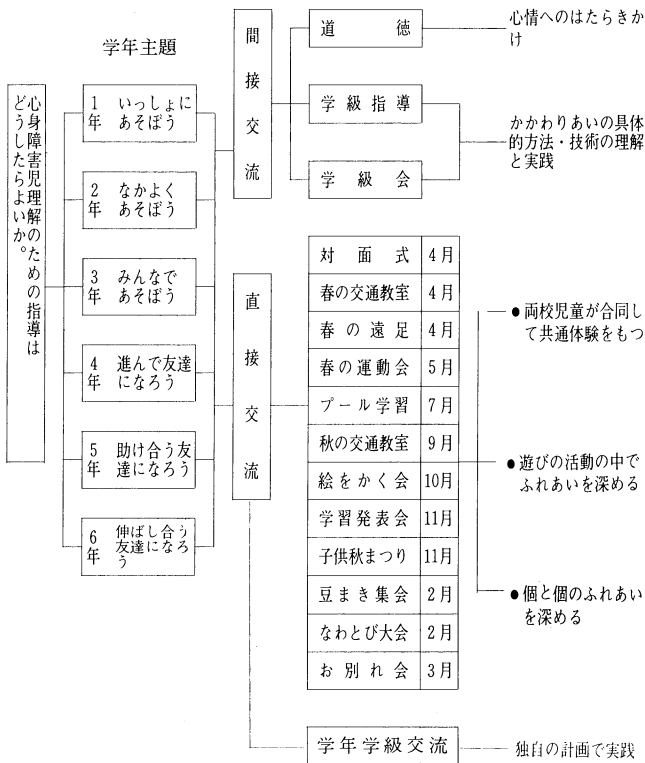


表1 交流教育の構想



- ③ 両校教師間の相互理解を図るため情報交換、学校参観、授業研究会を計画し、実施する。
- ④ 教師間の人間関係を深めるため、運動会実施後、全体協議会を企画する。
- ⑤ 交流教育推進機関紙「なかま」の発行や、PTA会報への記事掲載など広報啓発活動を活発に行う。
- ⑥ 交流行事の実践に際しては、計画の段階から、両校担当者で話し合い共通理解のもとに推進する。
- ⑦ 行事のみの交流にとどまらず、教科学習面でも交流が図れるよう内容

や方法を検討する。

(5) 実践例1 交流春の遠足

春の遠足は、学年交流の形で、秋の絵をかく会と同様に、昼食を共にできる長時間にわたる交流ができるため、子どもたちの最も楽しみにしている交流行事の一つである。

本校では、三年生までは、学年別に目的地を決め、歩いて往復する遠足である。四年生以上は、本校独自の「草野OLLラリー」と名づけた「たてわり方式」によるグループ活動の遠足を実施している。



仲よくポイントをさがす (OLLラリー)

OLLラリーとは、オリエンテーリングとウォークラリーとを組み合わせた方法で、走らないで、仲よく、まとまって行動し、協力しながら時間内に目的地に到着するゲームである。この行事には絹谷分校四年生も参加している。

① ねらい

ア、遠距離を歩行し、未知の地形やポイントの課題を解決することにより、体力を鍛えるときともに勇気と決断力とを養う。

イ、他学級、他学年、他校の友だちとグループを作り、活動を共にすることにより、協力の大切さと助け合い、信頼し合う心を培う。(交流のねらい)

ウ、OLLラリーをしながら目的地に到着する活動を通して、地図の読み方や社会知識を深めさせる。

② 参加者

草野小 三百四十名・絹谷分校 四名

③ 斡学校平分校 二名

④ 班編成

男子 三十三班 女子 二十六班 計 五十九班 (二班五、六名で編成)

⑤ 実施方法 (省略)

⑥ 実践の反省から

この交流遠足は、今年で七年目を数えるが、子どもたちにも好評の交流活動の一つである。

ア、毎年、石森山フラワーセンターが目的地のため、コースの検討や問題作成などに、新しいアイデアを取り入れるようにしている。

イ、教師の配置が適切に行われ、今年も無事故で終了することができた。

ウ、四月下旬の、しかも三校合同による活動のため、事前の準備、打ち合わせの時間などを適切にできるように改善していきたい。

エ、斡学校児童との交流については、グループ活動が円滑に行われ、所期の目的は達成できた。

オ、斡学校の児童数が少ないので、できるだけ多くの児童との交流が図れるよう、自由交歓など工夫していきたい。

カ、児童の作文から (抜粋)